

『コロナ』に負けるな！  
清掃事業を守るプライド

青年部の皆さんお疲れ様です！

最近はいかがお過ごしでしょうか。

この間、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が出された中、私たち清掃職員は「区民の生活の一部であり止めることのできない公共サービス」として危険と隣り合わせになりながらも職務にあたったことで、住民の方から多くの感謝状や励ましのメッセージを頂いています。

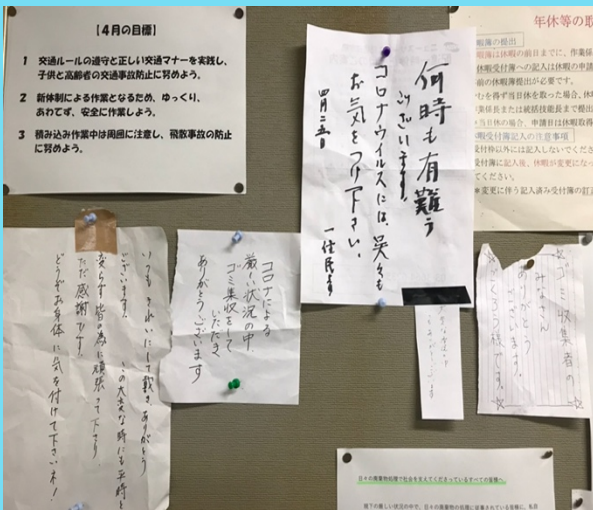
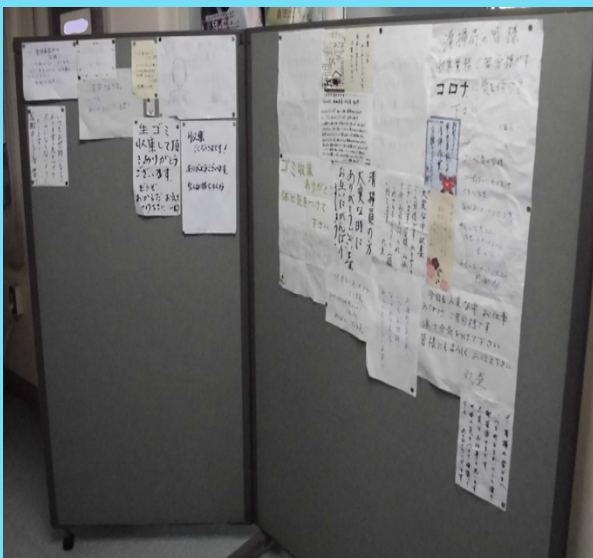
また、これだけのリスクと向き合いつながりながらも、組合員から感染者が出ていないことは、各職場においてしっかりとマスクの着用や手洗いがい、消毒などの徹底に努めたからだと思います！

まだ気の抜けない状況が続きますが、できることから少しずつ再開し、確定闘争や諸行動に向けて共に闘いましょう！！

## 住民の方々からの感謝の手紙

←感謝の言葉が書かれた多くの手紙を袋に貼ってもらい、事務所内で大切に保管されています。

↓ある支部では、マスクが不足している状況の中で、多くの手作りマスクを区民の方から寄付して頂いたそうです。



『狭山事件』 『狭山情宣行動』

今から57年前の1963年5月1日、埼玉県狭山市で女子高校生が行方不明になり、脅迫状がとどけられるという事件がおきました。警察は身代金を取りにあらわれた犯人を40人もの警官を動員したにもかかわらず取り逃がしてしまいました。女子高校生は遺体となって発見され、警察の大失敗に世論の非難が集中しました。捜査にいきづまった警察は、付近の被差別部落に見込み捜査を集中し、なんと証拠もないまま石川一雄さん(当時24歳)を別件逮捕し、1カ月にわたり警察の留置場(代用監獄)で取り調べ、ウソの自白をさせて、犯人にでっちあげたのです。地域の住民の「あんなことをするのは部落民にちがいない」という差別意識やマスコミの差別報道のなかでエン罪が生み出されてしまったのです。

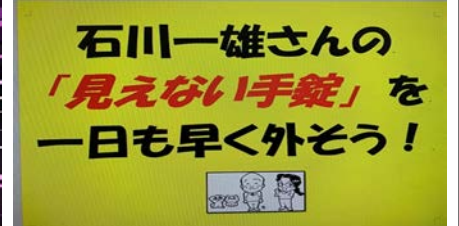
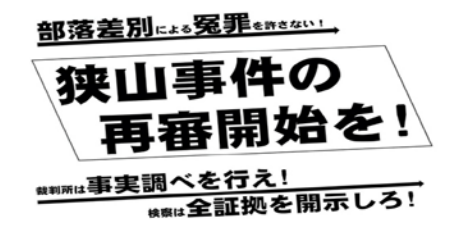
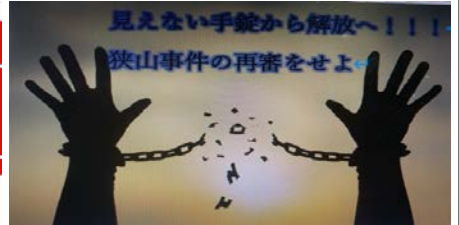
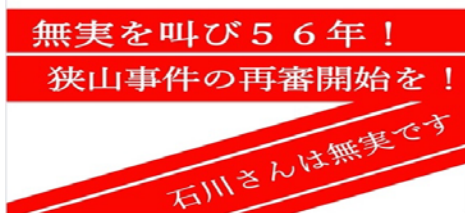
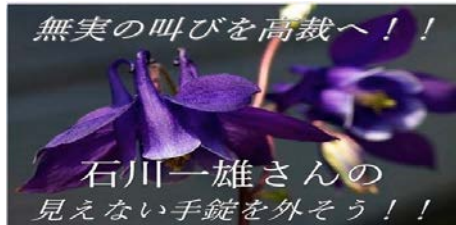
私たち、青年部は反戦・平和、差別・人権に取り組む方針を掲げ、部落解放同盟東京都連青年部と連携し、狭山青年共闘会議を立ち上げ取り組みを進めていきます。

狭山情宣行動は、毎年狭山市民集会の前日に駅の出口などで再審を要求するオンライン署名を募ったり、事件の詳細を記載したビラをティッシュに入れ配布し事件を周知する取り組みであります。

今年は、コロナウイルスの影響により情宣行動ができなかった為、次回に向けて、各自でプラカードを作る取り組みをしました。

次回の開催日時が決まり次第お知らせしますので多くの参加よろしくお願ひします。

～狭山情宣行動プラカード作り～



日々、新型コロナウイルス感染症に対する不安が募る中で現場の最前線に立ち、区内の衛生環境を守るために奮闘する仲間の皆さん、大変お疲れ様です。本部青年部長の高野です。出身は中央支部です。

さて、未知なるウイルスによる脅威が全世界で拡大し、4月7日には緊急事態宣言が政府より発令され、自粛生活を余儀なくされてからおおよそ3か月が経過した今でも感染者は増え続け、まだまだ予断を許さない状況です。そしてこの間、労働組合では様々な取り組みが延期または中止となつてしまい、青年部の取り組みも中止の判断をしなければならなくなつたことは、共に働く仲間の生命を最優先に考え、一人も欠けることなくこの未曾有の事態を乗り切るためであることをご承知いただきたいと思ひます。また、多くの取り組みに対し、結集の声を上げてくれた仲間の皆さんには、開催を実現できなかったこと、本部青年部を代表して心からお詫び申し上げます。

今後の青年部の方針としては可能な限りの機関会議を設置し、この状況の中でどのように取り組みを進めていくのか、前向きな視点で議論を重ねていきたいと考えています。そのためにも毎年10月に開催している青年部定期大会は、リモートなどではなくある程度縮小した形で開催を検討しています。安全に十分配慮し、大会の開催に向け全力を尽くします。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

最後に、コロナウイルスへの注意もありますが、最近では気温もかなり高くなってきています。マスクを着用しながらの作業では、より一層熱中症に対する配慮が必要になるため、こまめな水分・塩分補給を欠かさないことや、無理な積み込みや駆け足作業に対する意識を高く持ち、作業に取り組むことが『今できること』なのだと思います。では、近い将来に皆さんと元気にお会いするその時まで!

引き続き、共がんばりましょう。



青年部の皆さんへ

東京清掃労働組合青年部  
青年部長 高野 飛鳥